

江の川上流水害タイムライン 第3回検討会 ニュースレター

令和元年8月30日（金）広島県三次庁舎(10:00～12:00)

「江の川上流水害タイムライン」の作成に向けて、**第3回検討会**を開催しました。今回は、防災関係23機関が参加し、タイムライン（案）の読み合わせを行いました。これにより、留意点や役割分担について全体確認ができ、いよいよ運用を開始することになりました。

■ ワーキングスケジュール

勉強会 R元年 6月20日	目標設定と進め方の確認
	① タイムラインレベル（案）の確認 ② 水害リスクの把握と 防災行動項目の抽出（第1階層） 行動項目の分析と 重点行動項目の抽出
第1回 検討会 R元年 7月4日	重点行動の具体化・細分化
	・タイムラインレベルの設定 ③ 防災行動項目（第2階層）の抽出 ④ 重点行動項目の具体化・細分化（第3階層へ）
江の川上流水害タイムライン（素案）作成	
第2回 検討会 R元年 8月9日	役割分担の確認
	⑤ 役割分担の確認 ・行動項目を「いつ」「誰が」「誰と」 実施するか確認 ・ 他機関との連携ポイントを確認
江の川上流水害タイムライン（案）作成	
今回 第3回 検討会 R元年 8月30日	全体共有と課題確認
	江の川上流水害タイムラインの全体共有（読み合わせ）

江の川上流水害タイムライン（令和元年度版）

■ 江の川上流水害タイムラインの構成

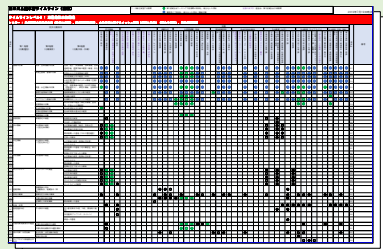
タイムラインの構成について確認を行った。

①タイムライン【概要版】



タイムライン【詳細版】の対応項目を抜粋して防災行動の種類毎に整理されています。対応の全体像を確認するときに活用します。

②タイムライン【詳細版】



行動手順・内容（第3階層）までの詳細な対応が各機関・部署毎に時系列に整理されています。水害時は対応のチェックリストとして活用します。

③タイムライン運用方法（案）

台風や大雨に対するタイムラインの立上げ・移行基準や、メーリングリストを利用した情報発信等が記載されています。タイムラインを運用する際に確認・活用します。



運用方法の構成

構成	概要	場面
1. はじめに、	・タイムラインやこれまでの検討経緯について記載。	ー、
2. タイムラインの立ち上げ・レベル移行・解除、	・「タイムラインの立ち上げ」、「レベルの移行」及び「タイムラインの解除」の判断に必要な情報・状況を記載。	出水期、
3. 出水時の対応および記録、	・タイムライン【詳細版】（記録用）への記入方法について記載。	
4. メーリングリストを利用した情報発信、	・メーリングリストで発信するべき内容や発信例について、記載。	
5. 振り返りの実施、	・タイムライン運用後の振り返りの実施方法について記載。	出水期後、

- 一次第一
1. 開会挨拶
 2. これまでの検討会振り返り
 3. グループワーク
・タイムライン運用方法（案）の確認
・タイムラインの読み合わせの実施
・台風期運用に向けて
 4. 質疑応答
 5. 座長講評

◆ 参加機関

三次市	中国電力(株)
危機管理課	西日本電信電話(株)
土木課	西日本旅客鉄道(株)
水道課	西日本高速道路(株)
下水道課	備北交通(株)
安芸高田市	社会福祉法人 水明会
危機管理課	社会福祉法人 ちとせ会
上下水道課	社会福祉法人 清風会
管理課	サンホーム
広島県	(株)三次ケーブルビジョン
道路河川管理課	国土交通省 三次河川国道事務所
広島県 北部建設事務所	河川管理課
管理課	道路管理課
広島県 西部建設事務所	灰塚ダム管理支所
広島県警察本部	国土交通省 土師ダム管理所
三次警察署	気象庁 広島地方気象台
安芸高田警察署	
備北地区消防組合 消防本部	
安芸高田市消防本部	
陸上自衛隊 第13旅団司令部	

出席：23機関、36名
（検討会構成機関：37機関）

座長	広島大学大学院 工学研究科	河原教授
----	---------------	------

■ 江の川上流水害タイムライン運用の概要

- **対象事象**：洪水、内水、土砂災害
- **運用機関**：三次市、安芸高田市、ダム管理者、警察、消防、自衛隊、ライフライン機関、公共交通機関、福祉避難施設、浸水時緊急退避施設、報道機関、広島県、気象庁および国土交通省の37機関
- **運用期間**：立ち上げ（台風または前線に伴う降雨が、3日後に江の川上流流域へ影響する恐れ）から、水防団待機水位を下回り、かつ大雨警報（浸水害）及び洪水警報が解除されるまで
- **その他**：避難勧告着目型タイムラインは、多機関連携型タイムラインである江の川上流水害タイムラインへ移行する

グループワーク

タイムライン読み合わせの実施

- ① 自機関の実施する行動項目と役割分担を確認
- ② タイムラインレベルごとに防災行動項目の読み合わせと、役割分担の確認を実施
- ③ 読み合わせでは各行動項目の役割分担を記号カードを使用して意思表示（変更の場合は色のついたカードを使用）
- ④ 読み合わせはタイムラインレベルに沿って行い、レベル移行時には平成30年7月豪雨の状況を確認し、実際の洪水対応をイメージしながら実施

<白いカード>

<青いカード>

<赤いカード>



実施しない

- 行動の主体
- 情報の発信

- 行動の支援
- 情報の受信

- 行動の主体
- 情報の発信

- 行動の支援

元

- 情報の提供元

元

- 情報の提供元



検討会全体の様子



タイムライン読み合わせの様子

■ グループワーク読み合わせの主な内容

項目	具体的な内容
1	タイムライン立ち上げ（レベル移行）の意思決定について 運用方法（案）に基づき、タイムラインの立ち上げやレベル移行に関する流れ及び参加機関への周知に関する項目が追加されたため、全機関で確認
2	大規模水害を想定した項目の追加 ① 早めの注意喚起 自治体より発表される避難情報以外に、早めの広域的な避難を促すための「浸水区域外への避難の呼びかけ（三次市、安芸高田市）」の追加を確認
3	大規模水害を想定した項目の追加 ② 避難生活の長期化を想定した避難施設との連携 発災後の福祉避難施設、浸水時緊急退避施設（三次市）の避難者の対応等について自治体と各施設管理者で連携を図ることを確認
4	ダムの放流情報や国道の交通規制情報について ダムの事前放流や異常洪水時防災操作時や、国道の交通規制に関する情報の周知方法や周知先を確認
5	各機関からのメーリングリストを活用した情報共有について 自治体からの避難情報や避難所開設情報、交通規制やバス・鉄道の運休情報、ライフラインの供給停止情報などをタイムライン参加機関メーリングリストでの発信することを確認（タイムラインにメールマーク記載）
6	タイムラインの役割分担について 交通規制時における道路管理者（主体的に行う機関）と警察（支援する機関）など、役割分担とタイムライン上の表記を確認。また、同種機関における実施状況の齟齬など全体を横並びで確認。

大勢の人が顔を合わせて議論することができたので、これをきっかけにいろんなことを相談できる形になってほしい。今年から試行運用を行いながら更新し続けることになる。2年、3年かけて作り上げていくことが大事。

座長：河原教授



■ まとめ

- 読み合わせを通して留意点や役割分担の漏れを全員で確認することができた。
- 情報伝達が非常に重要であり、ポータルサイトやメーリングリストを活用した共有・発信が効果的である。
- 台風期での運用を経て振り返りを行い、より良いタイムラインに改善していくことが大切である。